

平成 23 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

[分類]	普及技術
[成果名]	ラウンドアップマックスロードは水稻の耕起前雑草防除に有効である
[要約]	水稻耕起前にラウンドアップマックスロード 200～500ml/10a を水 100L に希釈して処理することで効果的な耕起前雑草防除が可能である。
[担当]	農業試験場作物部・農業技術課
[部会]	作物部会

1 背景・ねらい

省力的で除草効果の高い水稻用耕起前除草剤の実用性を検討し、新しく利用できる剤として情報提供する。

2 成果の内容・特徴

(1) 水稻耕起前にラウンドアップマックスロードを 200～500ml/10a を水 100L に希釈して雑草茎葉処理する。

農薬登録内容

ラウンドアップマックスロード

[一般名および成分含有量] グリホサートカリウム塩 48%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない [魚毒性]：A類

[対象作物に対する適用登録状況]（平成 23 年 10 月 12 日現在 J P P - N E T 確認）

作物名	適用病虫害/雑草	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	散布液量	グリホサートを含む農薬の総使用回数
移植水稻				耕起前(雑草生育期)	1回	通常散布 50～100 L/10a、少量散布 25～50 L/10a	1回
直播水稻	一年生及び多年生雑草	200～500ml/10a	雑草茎葉散布	耕起直後～出芽前(雑草生育期)(乾田耕起栽培) は種 30 日前～出芽前(雑草生育期)(乾田不耕起栽培)	2回以内	少量散布 25～50 L/10a	耕起栽培は2回以内(但し、耕起前は1回以内)、乾田不耕起栽培は2回以内

3 利用上の留意点

(1) 使用上の留意事項は、「農作物病虫害・雑草防除基準（長野県）」の除草剤の使用方法（耕起前の水田除草剤）を参照する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) 平成 23 年に農業試験場で実施した試験では、ラウンドアップマックスロード 500ml 処理区は 無処理対比 5% の残草であり、一年生雑草はほぼ完全に枯死した(表 1)。ラウンドアップマックスロード 200ml 処理では 17% の残草となったが耕起作業に支障をきたす量ではなかった(観察)。効果発現は慣行のラウンドアップハイロードと同等で処理後 7～8 日目に黄化が始まり、移植後の水稻への薬害は見られなかった(観察)。

表1 ラウンドアップマックスロードの雑草防除効果^{a)} (平成23年、農業試験場)

除草剤名	処理量	スズメノ テッポウ	スズメノ カタビラ	タネツケ バナ	スカシタ ゴボウ	ムラサキ サギゴケ	ヒメムカ シヨモギ	ノミノフ スマ	合計
ラウンドアップ マックスロード	200ml/10a	25	3	44	2	0	7	0	17
	500ml/10a	2	1	24	7	0	3	0	5
ラウンドアップ ハイロード	500ml/10a	13	9	70	27	0	0	0	21
無処理	—	132.3	47.1	32.9	78.3	4.5	3.9	10.5	309.4

a)無処理は乾物重(g/m²)、処理区は無処理区対比(%)

試験方法：試験場所は農業試験場内水田(耕起前、前年秋から不耕起、標高340m)。土壌は中粗粒グライ土。処理前の雑草被覆度は各区60~80%程度。

薬剤処理：4月12日処理。希釈水量は各100L/10a、散布機は背負い手動噴霧器、ウィードレスノズル使用、代かき5月20日、移植5月26日、1区10m²、2区制。

調査方法：5月14日調査。

(2)平成23年に安曇野市の現地ほ場で実施した試験では除草効果が高く(表2)、移植水稻への薬害は認められなかった(観察)。

表2 ラウンドアップマックスロードの雑草防除効果^{a)} (平成23年、松本農業改良普及セ)

除草剤名	処理量	スズメノテッ ポウ	スズメノカタ ビラ	ノミノフスマ	セリ	合計
ラウンドアップマックスロード	500ml/10a	0	0	0	0	0
ラウンドアップハイロード	500ml/10a	0	0	0	0	0
無処理	—	120	18.4	2.8	11.2	152.4

a)は表1と同じ

試験方法：試験場所は安曇野市豊科(標高540m)。処理前の雑草被覆度は80%程度。

薬剤処理：4月10日(耕起前)処理。散布機は背負い手動噴霧器、ラウンドノズル使用。耕起は4月24日、代かき5月11日、移植5月15日。反復無し。

調査方法：4月24日調査。

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

県植防受託(専門技術員)試験、平成23年度(2011年度)、民間受託